

三重県史

資料編  
近世4  
(下)

目次

口 序  
凡 例  
口 絵

総合解説・史料所蔵者等一覧…………… 1

第一章 幕末の藩治

第一節 桑名藩・北勢諸藩ほか…………… 58

第二節 津・久居藩…………… 75

第三節 紀州藩…………… 117

第四節 鳥羽藩…………… 147

第五節 神宮領…………… 163

第二章 海防と神宮警衛

第一節	神宮防衛論	206
第二節	神宮防衛体制	227
第三節	海防動員	283

### 第三章 幕末の兵事

第一節	天誅組蜂起	312
第二節	禁門の変と天狗党	357
第三節	幕長戦争と京都警衛	391
第四節	戊辰戦争	408

### 第四章 幕末の社会

第一節	一揆・騒動	484
第二節	地震・津波	525
第三節	流行病	552
第四節	ええじゃないか騒動	576
第五節	草莽と尊攘志士	761

### 第五章 維新期の藩治

第一節	桑名藩	784
第二節	北勢諸藩	809
第三節	津・久居藩	836
第四節	紀州藩	872
第五節	鳥羽藩	901
第六節	神宮領・旧幕領	922

資料提供者および協力者	954
あとがき	956

## 口絵目次

1	幕長戦争行軍図(国輝画)	9	鉄製砲身
2	伊州御城下破崖損所絵図(城内)	10	竹川竹斎肖像写真(表・裏)
3	伊州御城下破崖損所絵図(城下)	11	射和文庫
4	天降剣先祓	12	竹斎日記
5	神の恵民の賑	13	聞見録・聞見雑録・聞見集録
6	賛崎砲台絵図・砲台跡	14	豊秋雑筆
7	一色砲台絵図	15	御触控并記録
8	田曾浦番所より各地距離図		

## 細目次

## 第一章 幕末の藩治

## 第一節 桑名藩・北勢諸藩ほか

## 一 桑名藩主の動向と藩政

- 1 藩主松平猷溜問詰就任……………嘉永二年十月……………59
- 2 京都警衛の開始……………安政五年……………59
- 3 藩主松平猷死去……………安政六年十月……………59
- 4 藩主松平定敬、溜問詰就任……………万延元年十一月……………60
- 5 藩士、姫路藩用人と京都一条につき会談……………文久二年五月……………60
- 6 横目職筑摩市左衛門建白……………文久三年九月……………60
- 二 京都所司代
- 7 藩主松平定敬、所司代就任……………元治元年四月……………63
- 三 桑名藩の軍事改革
- 8 砲術演習……………元治元年九月……………64

- 9 西洋銃導入……………慶応二年……………64

- 10 銃隊切替……………慶応四年正月……………64

## 四 桑名藩の財政

- 11 銀札仕法……………慶応元年十二月……………65

## 五 菰野藩

- 12 大砲の鑄造……………嘉永六年七月……………66

- 13 大砲訓練の実施……………嘉永七年二月……………66

- 14 西洋式銃隊訓練実施につき廻状……………安政二年八月……………67

- 15 藩主土方雄嘉死去……………安政五年八月……………67

## 六 亀山藩

- 16 農問銃稽古の奨励……………慶応二年二月……………68

- 17 藩主石川成之に上京の指示……………慶応三年十月……………68

## 七 忍藩

- 18 忍藩大矢知領御用金下命……………元治元年十一月……………69

- 19 調達金割当ての書き上げ……………慶応二年十月……………70

- 20 米札を発行……………慶応二年四月……………71

## 八 一宮藩

21 江戸詰め足軽及び農兵の召集……………慶応二年九月……………71

第二節 津・久居藩

一 津藩の藩政

22 藩主藤堂高猷、幕府に公武合体の上書を提出……………文久二年五月……………76

23 朝廷より高猷へ国事周旋下命……………文久二年八月……………79

24 高猷、幕府に時局を上申……………慶応元年四月……………79

25 高猷・世子高潔が徳川慶喜に將軍就任を勧告……………慶応二年七月……………82

26 高猷・世子高潔の徳川慶喜の諮問への答申……………慶応二年十一月……………83

27 高猷の大政奉還後の処置に関する建白書……………慶応三年十月……………84

28 高猷、政務につき上奏……………慶応三年十一月……………84

二 津藩の農兵

29 嚮導組設立の達……………文久三年四〇九月……………86

30 健壯組設立の達……………文久三年九月……………87

31 農兵諸隊願訴に関する達……………元治元年六月……………88

32 農兵免除に関する達……………慶応元年四月……………88

三 津藩の軍事

33 壯士隊・郷士隊の設立……………嘉永六年六月……………89

34 藩主高猷、藩士から武備充実に關する意見を聴取……………安政二年三月……………89

35 兵制改革の実施……………安政二年十二月……………90

36 焰硝蔵で爆発事故……………安政四年二月……………91

37 藩主高猷小銃などをオランダより購入……………安政五年三月……………91

38 長谷場村内に郷鉄砲組の打稽古場を取立て……………文久二〇三年……………91

39 砲台築造、柵門の設置……………文久三年……………92

40 軍装改革につき達……………慶応三年三〇十一月……………92

41 津藩、軍装並びに小銃等につき定……………慶応三年三月……………94

42 兵制改革により編成替え……………慶応三年六月……………97

43 鉄砲足軽召し抱えについての達……………慶応三年八月……………97

四 津藩の無足人

44 職制整備に伴う無足人・武家奉公人への達……………安政三年十二月……………98

45 無足人子弟の縁組に關する注意……………慶応二年八月……………99

五 津藩の經濟対策

46 綿・木綿など領外売出し禁止……………文久三年八月……………100

47 米の他所売り禁止、米相場の上限設置……………慶応二年二〇六月……………101

48 米屋への注意、糠問屋売り立て……………慶応二年〇明治二年……………103

49 蒸気船購入・到着につき申し付け……………慶応三〇四年……………104

	六久居藩		
50	大砲掛・撤隊などの書き上げ	文久三年二月	105
51	非常御手当人足の書き上げ	文久三年六月	111
52	農兵撤隊組の調査	文久三年十月	112
53	米の領外への売出し禁止	安政五年七月	115
	第三節 紀州藩		
	一 田辺与力松坂移転一件		
54	田辺脱藩与力の帰参運動と松坂城番就職	安政五年 文久三年	118
	一一 軍事改革		
55	軍師富山らによる地土訓練	安政三年正月	125
56	西洋砲術訓練	万延元年四月	126
57	松坂城代の地土帯刀人武芸検分	元治元年三月	127
58	勢州三領地土帯刀人調査	元治元年七月	127
59	松坂・一志の地土帯刀人、非常御備人数組込み	元治元年八月	128
60	武芸出精、地土帯刀人勧誘の者へ褒賞	元治元年十一月	129
61	白子鼓ヶ浦で月一度の地土帯刀人訓練実施	慶応元年六月	130
62	三領地土帯刀人への扶持が公示	慶応元年十月	131
63	田丸領の荘司守、農兵取立て役拜命	慶応三年三月	131
64	兵制改革によりミニエール銃の採用決定	慶応三年四月	132
65	勢州で農兵千五百人取立て	慶応三年六月	133
66	三領取立て農兵三千余人の姓名・年齢・肩書調査	慶応三年十月	133
67	熊野村々で農兵取立て	慶応三年十月	134
68	三領地土帯刀人惣訓練	慶応三年十一月	135
	三 支配機構改革		
69	津田正臣勢州奉行就任	慶応三年正月	136
70	藩政改革の公示	慶応三年三月	137
71	勢州鳥見役などが廃止	慶応三年九月	139
	四 藩政		
72	伊勢錦植付け奨励	文久二年十二月	140
73	新宮領での風俗統制	文久三年三月	141
74	難渋百姓救済のため畝米実施	文久三年六月	142
75	儉約令発布	慶応元年	143
76	五か国通用銀札発行	慶応三年正月	144
77	外国通商に向け桑植付け奨励	慶応三年二月	145
78	三領の荒地・空き地で櫨植付け奨励	慶応三年十月	146

## 第四節 鳥羽藩

## 一 鳥羽藩の軍事改革

- 79 鳥羽藩大砲方役人の台場検分……………安政元年十一月……………148  
 80 竹斎らの勝門下での砲術訓練……………安政二年七月……………148  
 81 領民の非常用途への動員……………安政六年正月……………149  
 82 領内庄屋・旅帯刀之者子弟の砲術訓練……………安政七年三月……………150  
 83 鳥羽藩勢州領の砲術稽古場設置……………慶応二年七月……………151

## 二 鳥羽藩の国産仕法

- 84 大坂田中屋の天草一手買入れと外売り禁止……………嘉永五年四月……………152  
 85 天草一手買入れにつき廻達……………嘉永五年五月……………152  
 86 天草専売につき口上覚……………慶応二年十一月……………153  
 87 天草不埒の者八名に村替処罰……………慶応三年五月……………154

## 三 鳥羽藩の財政窮乏

- 88 京都出兵と領内への調達金依頼……………元治元年九月……………156  
 89 大坂在陣と志勢村々への調達金賦課……………慶応二年六月……………156  
 90 小野札の停止と三州長沢札の通用強制……………慶応三年六月……………157  
 91 長沢札引換えにつき達……………慶応三年六月……………158

## 四 鳥羽藩の藩主と家中

- 92 稲垣長明の死去……………慶応二年九月……………158  
 93 稲垣長行の襲封……………慶応二年十一月～十二月……………160

## 五 鳥羽藩の領民支配

- 94 志州盲人支配につき書状……………安政三年六月……………160  
 95 村々名前の者の身分取扱い……………安政六年二月……………161  
 96 他支配よりの書状の処理方につき達……………安政六年八月……………161

## 第五節 神宮領

## 一 神宮への寄進・援助

- 97 両宮へ千石ずつの加進米……………元治元年十二月……………164  
 98 津藩の献納米について嘆願書……………慶応三年九月……………165

## 二 神宮領の特権

- 99 紀州藩領の土器製作者等、海防動員忌避……………嘉永七年十一月……………166  
 100 野後村の人足徴発忌避……………慶応三年六月～七月……………169  
 101 大宮御所造営の国役拒否……………慶応三年九月……………175  
 102 紀州藩鷹場掛の立入り阻止の運動……………慶応三年九月・十月……………176

## 三 キリスト教布教対策

103	キリスト教布教反対の嘆願工作	安政五年三月四月	177
	四 神域内の諸問題		
104	月次祭宮中警衛に尾張藩士出張	文久三年六月	182
105	慶光院参宮復活	慶応元年五月	183
106	神宮参詣者は礼服着用の達	慶応三年七月	183
	五 勅使参向とその施策		
107	公卿勅使参向の道筋に対する注意書	安政五年六月	184
108	公卿勅使参向につき諸注意	文久元年五月	186
109	町家にて神札等の商売制禁	文久三年四月	188
110	内院へ雑人参入禁止	文久三年四月	189
	六 山田奉行とその施策		
111	神宮領民への養老典	文久二年八月	189
112	山田奉行欠員補充の請願	文久三年十月	190
113	山田奉行発令につき欠員補充請願の取下げ	文久三年十月	191
114	本多忠貫山田奉行所に到着	文久三年十二月	192
115	山田銀札新札に引換えの達	元治元年四月	194
116	神宮領田畑を寺に売却することの禁令	元治元年十月	194
117	將軍進発に際し献金の書付	慶応元年七月	195
118	宮川渡船破損につき山田奉行より寄附	慶応三年三月	196
	七 鳴物等停止		
119	將軍死去につき鳴物等停止の触	慶応二年八月	196
120	將軍死去に際し、神宮の作事は続行の届	慶応二年八月・九月	197
121	孝明天皇崩御につき鳴物等停止の触	慶応三年正月	198
122	鳴物停止一部解除の触	慶応三年二月	201
	八 神宮領内の諸問題		
123	芝居狂言不作法に対する申入れ	安政四年五月	202
124	盆踊りについての触	文久元年七月	202
125	制札損壊行為に対する触	元治元年四月	203
126	身元不随かな者の宿泊禁止の触	元治元年五月	203
127	宿泊人に対する注意の触	元治元年六月	204

## 第二章 海防と神宮警衛

## 第一節 神宮防衛論

## 一 神宮祠官の神宮防衛論

128	井坂徳辰著「神境防夷」	嘉永六年	207
-----	-------------	------	-----



129	二 津藩主の神宮防衛論	安政二年二月	222
	藤堂高猷の神宮警衛意見書		
	三 洋式軍装に対する意見		
130	町人の胡服論		223

## 第二節 神宮防衛体制

## 一 幕府・山田奉行等の神宮警衛

131	神宮神職の剣術等修行につき山田奉行口達	嘉永六年十一月	228
132	師職の武芸につき山田奉行口達覚書	安政二年六月	228
133	銃器鑄造のため梵鐘調査を命ずる山田奉行書付	安政二年十月	230
134	伊勢湾口警備につき勝海舟の談話		231
135	山田奉行所・各藩の神宮警衛の現況報告	元治元年七月	232
136	宮中巡回につき覚	慶応三年十一月	233
137	山田奉行所の宮中警衛出張所を引き払い	慶応三年十二月	235
	一一 神宮神職の建白等		
138	伊勢神宮祠官の開港等についての口上	安政五年三月	235
139	神三郡・志摩国へ異国人立入禁止の再願書	文久元年六月	237
140	伊勢湾測量予定の英艦の立入禁止を通告	文久元年九月	238

141	神宮警衛につき神主・会合より建白	文久三年二月	239
142	会合年寄へ神宮警衛につき沙汰書	文久三年四月	241
143	神宮警衛の沙汰書に対する会合年寄の請書	文久三年五月	242
144	神宮警衛の沙汰書をめぐる誤解	文久三年五月	243
145	朝廷より修正の沙汰書を両会合へ交付	文久三年十二月	244
	三 神宮側の防備と農兵		
146	神領五か村より人夫動員	文久三年五月	245
147	津藩より神宮へ高千石神納	文久三年八月	246
148	津藩より神宮へ鉄砲一〇〇挺献納	文久三年八月	247
149	勅使、神領より農兵取立てを命令	文久三年九月	247
150	津藩より小銃献納	文久三年九月	249
151	神宮農兵規則	文久三年九月	250
152	神領農兵組頭小銃を受領	文久三年九月	252
153	農兵に帯刀許可など祭主よりの指示	文久三年十一月	254
154	山田にて農兵の鉄砲稽古	元治元年四月	255
155	農兵組頭の乗馬・持槍許可申請	元治元年四、五月	255
156	農兵組頭の乗馬・持槍許可再申請	元治元年五月	256
157	農兵組頭に乗馬・持槍許可	元治元年九月	257

158	農兵の請書……………	258
159	農兵総督の交替……………	260
160	津藩の献納米半額延納の申入れ……………	260
	四 鳥羽藩の神宮警衛	
161	伊雑宮の警備につき神宮より鳥羽藩への返答……………	261
162	鳥羽藩、伊雑宮に大砲据付けの準備……………	262
163	大歳社境内に大砲据付けにつき伺い……………	263
164	鳥羽藩の非常時繰り出し人数予定……………	263
165	鳥羽藩に度会府の警衛下命……………	266
	五 津藩の神宮警衛	
166	津藩主藤堂高猷神宮に大砲を献納……………	266
167	津藩二見へ大筒小屋建設……………	267
168	津藩へ京都・神宮警衛の勅命……………	267
169	津藩二見にて大砲試射……………	267
170	津藩台場建設につき人足の動員……………	268
171	津藩、二見に大砲を設置……………	269
172	津藩に神宮近辺海岸警備下命……………	269
173	津藩二見付近の測量……………	270
174	津藩の二見砲台完成……………	271
175	津藩砲台費用領内へ賦課……………	272
	六 久居藩の神宮警衛	
176	久居藩の台場・陣屋建設……………	275
177	久居藩に神宮警衛下命……………	275
	七 尾張藩の神宮警衛	
178	両宮・伊雑宮の警衛を尾張藩に下命……………	275
179	尾張藩の陣屋建設……………	276
180	尾張藩兵詰場所目印設置……………	276
181	尾張藩に神御衣祭警固を下命……………	277
182	尾張藩へ勤番場所建設予定地を貸与……………	277
183	尾張藩番所へ勤番開始……………	279
184	尾張藩の番所詰め勤番士ら引き払い……………	280
185	尾張藩の警衛勤番再開……………	281
	第三節 海防動員	
	一 紀州藩の海防体制	
186	嘉永三年の紀州藩浦組備え……………	284

187	嘉永七年の海岸防御態勢	嘉永七年二月	285
188	浦々固め方の達	嘉永七年二月	286
189	松坂領の「浦組御備立帳」	文久三年三月	287
190	勢州三領地士の砲術稽古	元治元年八月	293
	一 亀山藩の海防体制		
191	嘉永六年の若松浦防御態勢	嘉永六年	294
192	若松浦警衛の強化	嘉永六年六月	295
	三 外国船漂着と海防動員		
193	清国船の漂着	安政二年正月	295
194	菰野藩士の出張	安政二年正月	299
195	津藩兵の松坂通過	安政二年正月	299
196	久居藩の非常動員	安政二年	300
197	田丸領地士の動員	安政二年正月	301
198	磯部師職人の海防動員	安政三年六月	302
199	万延元年のイギリス船員上陸	万延元年六月	303
200	迫間浦への元治元年の異国船出現	元治元年九月	304
201	慶応元年の異国船漂着	慶応元年四月	306

#### 四 文久元年の海岸測量問題

202	幕府海岸測量に対する紀州藩の警戒	文久元年八月	307
203	鳥羽藩の動員体制	文久元年九月	308

### 第三章 幕末の兵事

#### 第一節 天誅組蜂起

	一 菰野藩と天誅組		
204	菰野城下の警備	文久三年十月	313
	二 津藩の大和出兵		
205	津藩兵の天誅組鎮圧	文久三年八月～十月	314
	三 津藩の領内動員		
206	津藩伊勢領からの軍夫動員	文久三年三～十一月	325
	四 久居藩と天誅組		
207	久居藩無足人の動員	文久三年九月	328
	五 紀州藩と天誅組		
208	勢州領地士、高見峠へ出張	文久三年八月	329
209	松坂城下の警備体制	文久三年八～十一月	333
210	木本代官所の警備体制	文久三年八～九月	344

	六 神宮と天誅組	211	神宮の警衛	211	文久三年八月	354
	七 鳥羽藩と天誅組		鳥羽領内の警備	212	文久三年八月	356
	第二節 禁門の変と天狗党		一 水戸藩士の神宮参籠一件			
		213	元治元年の参籠	213	元治元年六月	358
		214	浪士参籠に対する神宮の稟請	214	元治元年六月	358
		215	神戸藩士の山田奉行所詰め	215	元治元年六月	359
		216	紀州藩田丸領の動員	216	元治元年六月	360
		217	水戸藩士の退去	217	元治元年七月	362
	二 禁門の変と桑名藩		禁門の変での桑名藩士の活動	218	元治元年七月	363
		219	領内の防衛体制	219	元治元年七月	364
	三 禁門の変と北勢諸藩		勢州諸藩に長州藩士東下抑止の幕命	220	元治元年七月	365
		221	忍領に非常手当の指令	221	元治元年十一月	367
	四 禁門の変と津・久居藩		伊賀無足人の禁門の変への参加	222	元治元年六月	368
		223	撤兵隊士の西宮派遣	223	元治元年	370
	五 天狗党と伊勢諸藩		桑名藩士天狗党鎮圧に出張	224	元治元年十一月	371
		225	桑名へ孤野勢来援	225	元治元年十一月	383
		226	津藩撤兵隊越前へ出張	226	元治元年	384
		227	田丸領地士の田丸城に詰め	227	元治元年十二月	389
	第三節 幕長戦争と京都警衛		一 幕長戦争と北勢			
		228	忍領民の郷夫動員	228	慶応二年六月	392
			二 津・久居藩と幕長戦争			
		229	津藩撤兵隊士の京都警衛	229	慶応二年六月	393
	三 幕長戦争と紀州藩		奥熊野からの在夫取立て	230	慶応元年九月	395
		231	長州出兵中の領内警戒態勢	231	慶応元年	396
		232	領内寺社への献金命令	232	慶応二年六月	398

233	戦死者への諡号取扱いにつき達	慶応二年八月	398
四 京都警衛と北勢諸藩			
234	桑名藩兵の大挙上京	慶応三年十一月・十二月	399
235	桑名藩士の上京日誌	慶応三年十二月	399
236	桑名藩士の下坂と合戦準備	慶応三年十二月	400
237	桑名城下の防衛態勢	慶応三年十二月	401
238	亀山藩の上京	慶応三年十二月	401
五 津藩と京都警衛			
239	山崎詰め撤兵の代勤	慶応三年三月	403
240	藤堂高潔の着京	慶応三年十一月・十二月	404
六 鳥羽藩と京都警衛			
241	鳥羽藩家中の評議	慶応三年十二月	405
第四節 戊辰戦争			
一 桑名藩論の帰趨			
242	桑名藩の防衛態勢	慶応四年正月	409
243	鳥羽・伏見の戦後の桑名の状況	慶応四年正月	409
二 桑名開城			
244	桑名領内への謹慎の指示触	慶応四年正月	411
245	桑名藩家老より亀山藩への嘆願	慶応四年正月	413
246	桑名藩家中士の処分	慶応四年正月	414
247	諸藩の桑名繰り込み	慶応四年正月	417
248	追討軍定敬の罪状を貼札	慶応四年正月	418
249	桑名城下の混乱	慶応四年正月	419
250	桑名一件につき来簡	慶応四年正月	422
三 赤報隊一件			
251	赤報隊士の四日市連行	慶応四年正月	423
252	赤報隊士桑名に上陸	慶応四年正月	424
253	赤報隊士の捕縛と処刑	慶応四年正月	425
254	赤報隊士の辞世	慶応四年正月	427
四 亀山藩と戊辰戦争			
255	亀山藩主上京遅延の書簡	慶応四年正月	429
256	津藩、伊賀で亀山藩兵の上京を阻止	慶応四年正月	430
257	東征諸隊の輜重運送を拜命	慶応四年二月	430
258	亀山藩の出兵免除願	慶応四年七月	431
五 津藩の山崎警衛			

259	鳥羽・伏見の戦と山崎関門	慶応四年正月	432
260	津藩の鳥羽領内探索	慶応四年二月	437
	六 津藩領内の動員		
261	藤堂多門の出動	慶応四年正月	438
	七 津藩の東征従軍		
262	藤堂監物の出発	慶応四年二、四月	441
263	小田原合戦	慶応四年五月	446
264	小名浜上陸と浪江戦争	慶応四年七、八月	450
265	伊賀無足人の東征従軍	明治元、三年	456
266	津藩への賞典禄給与	明治二年六、九月	464
	八 津藩士民の被害		
267	津藩東征と民衆の動員	慶応四年、明治二年	465
268	戊辰戦争死者の施餼鬼	明治元年九月	466
269	戊辰戦争死者の書上	明治元年九月	467
	九 紀州藩と敗兵処分		
270	敗兵の和歌山街道通過	慶応四年正月	469
271	敗走兵取扱いにつき通達	慶応四年正月	470
272	敗走兵への船便の斡旋	慶応四年正月	471
273	尾鷲浦へ入津の幕兵	慶応四年二月	472
274	関東軍の敗兵調査	慶応四年七月	473
	一〇 鳥羽藩と戊辰戦争		
275	鳥羽藩主の宥免嘆願	慶応四年正月	474
276	鳥羽藩主の宥免	慶応四年三、五月	476
277	鳥羽藩主諸事改革の布達	慶応四年五月	478
278	鳥羽藩への軍資金献納命令	慶応四年五月	479
279	領内への四万五千両上金命令	慶応四年五月	480
	第四章 幕末の社会		
	第一節 一揆・騒動		
	一 紀州藩安政騒動		
280	紀州藩安政騒動の始まり	安政四年閏五月	485
281	牟婁郡村民江戸出訴の風聞	安政三年五月	486
282	村替中止	安政四年七月	486
	二 安政二年尾鷲越訴		
283	稲生屋越訴一件	安政二、三年	487

三 安政五年尾鷲米騒動

284 米騒動参加者の口上書……………安政五年……………496

四 幕末期の不穏屯集

285 波瀬村村民騒動……………万延元年・文久三年……………498

286 菰野藩水沢村小前の箱訴……………慶応元年六月……………499

287 箱訴関係者の処罰……………慶応元年七月……………500

288 桑名領不穏屯集事件……………慶応二年十二月……………500

五 専修寺騒動

289 専修寺騒動の展開……………慶応元々二年……………500

290 専修寺騒動と津藩……………慶応元々二年……………504

六 四日市助郷一揆

291 四日市助郷一揆の発生……………慶応元年十月……………505

292 四日市助郷一揆参加者の口上書……………慶応二年二月……………506

七 亀山藩助郷一揆

293 亀山藩古助郷一四か村の蜂起……………慶応三年二月……………511

294 一揆勢屯集の状況と要求……………慶応三年二月……………512

295 関係者の処罰……………慶応三年二月……………516

八 維新时期の一揆

296 加太村不穏屯集一件……………明治三年正月……………517

297 美鹿村不穏屯集一件……………明治二年十一月……………519

九 忍藩一揆

298 豊秋の忍領一揆記録……………明治二年十月……………519

299 一揆の攻撃対象……………明治二年十月……………520

一〇 博徒の活動

300 荒神山騒動……………慶応二年四月……………522

301 荒神山騒動の風評……………慶応二年四月……………523

302 荒神山騒動の余波……………慶応三年四月……………524

303 博徒の狩込み……………慶応三年八月……………524

第二節 地震・津波

一 安政伊賀地震

304 水沢村常願寺本堂など倒壊……………嘉永七年六月……………526

305 地震発生時の亀山……………嘉永七年六月……………527

306 亀山藩の地震被害……………嘉永七年六月……………527

307 地震の記録……………嘉永七年六月……………529

308	伊賀国の地震被害	……………	安政二年六月	533
309	松坂の地震被害	……………	嘉永七年六月	536
	二 安政東海地震			
310	長島藩の地震被害	……………	安政元年十一月	536
311	神戸藩の地震被害	……………	安政二年正月	537
312	安政東海・南海地震	……………	安政元年十一月	538
313	津・山田・紀州領伊勢国南方浦々の地震被害	……………	安政元年十一月	539
314	鳥羽方面の地震被害	……………	安政元年十一月	541
315	加納領・有馬領の地震被害	……………	安政元年十二月	542
316	志摩の地震被害	……………	安政元年十一月	544
	三 安政江戸地震			
317	小津清左衛門長柱の日記にみる江戸の地震	……………	安政二年十月	549
	第三節 流行病			
	一 コレラの流行			
318	北勢のコレラ	……………	安政五年八月	553
319	桑名のコレラ	……………	安政五・六年	553
320	中勢のコレラ	……………	安政五年九月	554
321	道中でコレラに罹病	……………	安政五年八月	554
322	悪病流行につき千度参詣	……………	安政六年九月	555
323	伊賀のコレラ	……………	安政六年	555
324	尾鷲南浦で船頭コレラで死亡	……………	安政五年八月	556
325	尾鷲南浦で水主コレラで死亡	……………	安政五年九月	558
326	暴瀉病の薬法の触	……………	安政五年八月	559
327	紀州のコレラでお祓配布	……………	安政六年八月	560
328	尾鷲組のコレラ死者数	……………	安政六年八月	561
	二 文久の麻疹流行			
329	伊賀の大山田村の麻疹	……………	文久二年閏八月	562
330	小津清左衛門長柱の日記にみる麻疹の流行一	……………	文久二年六月	563
331	小津清左衛門長柱の日記にみる麻疹の流行二	……………	文久二年七、閏八月	566
332	津領の麻疹の流行	……………	文久二年	569
	三 傷寒の流行			
333	傷寒の流行	……………	文久二年五月	569
	四 種痘の普及			
334	疱瘡流行につき村送り払い実施	……………	嘉永五年四月	572
335	小津清左衛門長柱の日記にみる種痘	……………	慶応二年三月	573



336	種痘日につき通達	慶応四年四月	573
337	種痘接種後の改めにつき通達	明治三年二月	574
	第四節 ええじゃないか騒動		
	一 安政の中お蔭		
338	安政のお蔭参り	安政二年四～五月	577
339	安政のお札降り	安政二年三～四月	579
340	松坂の様子	安政二年三～四月	584
	二 文久・元治の降札		
341	菰野のお札降り	文久三年十一月	585
342	津のお祓投げ入れ	元治元年九月	586
	三 ええじゃないかの始まり		
343	お蔭参宮船の到着	慶応三年八～十二月	587
344	海上よりの参宮	慶応三年八月	589
345	お札降りの波及	慶応三年八～十一月	589
346	伊勢お札降りの始まり	慶応三～四年	590
	四 北勢のええじゃないか		
347	桑名のお札降り	慶応三年九～十一月	592
348	桑名藩の対応	慶応三年九～十一月	604
349	祝宴での事件一	慶応三年十月	612
350	祝宴での事件二	慶応三年十一月	612
351	河原田村での不思議	慶応三年十一月	612
352	桑名藩のええじゃないか禁令	慶応三年十月	615
353	下田家祝儀帳	慶応三年十一月	615
354	忍藩のええじゃないか禁令	慶応三年十一月	619
355	菰野藩のええじゃないか禁令	慶応三年	620
356	東海道筋の様子	慶応三年十月	620
357	亀山のお札降り	慶応三年十一月	621
	五 津のええじゃないか		
358	東海道各宿のお札降り	慶応三年九～十月	621
359	川喜田政明のええじゃないか記録	慶応三～四年	622
360	津お札降りの情報	慶応三年十月	631
361	川喜田家へのお札降り	慶応三年十一月	632
362	津藩のええじゃないか対策	慶応三年十一月	642
363	幕末世相歌	慶応三年十一月	645
364	通り筋の様子	慶応三年十一月	646

365	豊島家祝儀賞……………	慶応三年十一月……………	647
六 松坂のええじゃないか			
366	小津家へのお札降り……………	慶応三年十一月……………	648
367	紀州藩領のええじゃないか禁令……………	慶応三年十月……………	649
368	紀州藩領のええじゃないか再禁令……………	慶応三年十一月……………	650
369	長谷川家のお札降り……………	慶応四年正月……………	651
370	射和村のお札降り……………	慶応三〇四年……………	651
371	竹川家へのお札降り……………	慶応三年十一月……………	658
372	南勢各地のお札降り……………	慶応三〇四年……………	659
373	竹斎のええじゃないか論……………	慶応三年十一月カ……………	681
374	丹生侯村のええじゃないか……………	慶応三〇四年……………	684
375	下之川村のええじゃないか……………	慶応三年十一月……………	688
七 神宮とええじゃないか			
376	神領五か村へのお札降り……………	慶応三年十一月……………	690
377	小俣村のお札降り……………	慶応三年十一月……………	700
378	小林家祝儀帳……………	慶応三年十一月……………	700
379	高向村のお札降りと湯立て神事……………	慶応三年十一月……………	704
380	伊勢のお札降り……………	慶応三年十一月……………	708
381	古今雑誌のええじゃないか記録……………	慶応三〇四年……………	715
382	神宮への群参……………	慶応三年十一月……………	720
383	田中町のええじゃないか記録……………	慶応三年十一月……………	722
384	ええじゃないかの囃子詞……………	慶応三年八月……………	724
385	山田奉行よりの指示一……………	慶応三年十月……………	725
386	山田奉行よりの指示二……………	慶応三年十月……………	726
387	山田奉行よりの指示三……………	慶応三年十一月……………	726
388	宇治・山田お札降り調書……………	慶応三年十一月……………	727
389	神宮のええじゃないか対策……………	慶応三年十一月……………	728
390	楠部村お札降りの調書……………	慶応三年十一月……………	733
391	神宮へのお札降り……………	慶応三年十一月……………	739
392	谷兵部事件の吟味書……………	慶応三年十一月……………	739
393	お蔭群参への対応……………	慶応三年十二月……………	743
八 鳥羽のええじゃないか			
394	鳥羽のお札降り……………	慶応三年十一月……………	743
九 南勢・東紀州のええじゃないか			
395	鳥羽藩のええじゃないか禁令……………	慶応三年十一月……………	746
396	泉村にお札降り……………	慶応四年正月……………	747

397	五ヶ所浦のお札降り	慶応三年十一月	748
398	西村家祝儀帳	慶応三年十一月	748
399	野後村のお札降り	慶応三、四年	752
400	山崎権太夫のええじゃないか記録	慶応三年十月	756
401	尾鷲・熊野のお札降り	慶応三年十一月	758
402	渡辺家の「万代録」	慶応三年十一月	760
第五節 草莽と尊攘志士			
一 谷対馬一件			
403	谷対馬の取調べ	安政六年三月	762
二 世古格太郎の活動			
404	格太郎の逮捕	安政五年	764
405	格太郎の処罰	安政六年十一月	764
406	格太郎の風説	文久三年八月	768
407	浪士の格太郎批判	元治元年四月	769
三 尊攘志士と伊勢			
408	孤野藩の志士預かり	文久三年六月	772
409	久居藩の浪士預かり免除要請	文久三年七月	778
第五章 維新期の藩治			
第一節 桑名藩			
一 旧藩主と知藩事			
410	謹慎中の松平定教	慶応四年正月	785
411	松平定教等、謹慎解除	明治元年十月	786
412	松平定教帰桑	明治四年四月	786
413	松平定教、藩知事免職	明治四年七月	787
414	松平定教、東京へ出立	明治四年九月	787
二 尾張藩支配			
415	尾張藩支配の開始	慶応四年二、三月	787
416	藩士妻女下宿の件につき伺い	慶応四年三月	788
417	謹慎者の大部分赦免の達	慶応四年四月	788
418	津藩、桑名藩士を保護	慶応四年閏四月	788
419	尾張藩より弁事官へ報告	慶応四年八、九月	789
420	家中に米一万俵下賜	明治元年九月	790
421	惣町中惣代等よりの嘆願	明治元年十二月	791
422	桑名寺院より再嘆願	明治元年	791

423 尾張藩預け解除……………明治二年九月……………792

三 藩制の改正

421 桑名藩制改正……………明治三年十二月……………793

四 維新期の家臣と領民

425 藩士滝沢吉右衛門の手配……………慶応四年二月……………799

426 藩士滝沢吉右衛門の最後……………慶応四年二月……………800

427 柏崎で謹慎中の藩士ら帰桑……………慶応四年七月……………800

428 公用人森弥一左衛門、処刑……………明治二年十一月……………802

429 戊辰戦争殉難慰霊祭……………明治三年三月……………802

430 桑名藩士、新開地に移住……………明治三年九月……………803

431 金札贖造犯の逮捕……………明治四年三月……………803

五 維新期の宿場町桑名

432 諸侯通行……………慶応四年五月……………803

六 新しい時代への期待と不安

433 産業振興策建白……………明治三年五月……………805

434 青年藩士、死を以て建言……………明治四年五月……………807

第二節 北勢諸藩

一 長島藩

435 他藩に先駆けて金札借用……………慶応四年六月……………810

436 藩主増山正修の養子承認……………明治二年三月……………811

二 忍藩

437 農兵取立てにつき人数差出……………慶応四年閏四月……………811

438 農兵取立てにつき郡中銃隊世話役任命……………慶応四年七月……………812

439 銃隊稽古につき達……………慶応四年八月……………813

440 王政御一新に伴い旧例・先格廃止につき達……………明治元年九月……………815

441 元藩主松平忠国の四十九日明けにつき達……………明治元年九月……………815

442 東京行幸につき諸注意……………明治元年九月……………815

443 遠足調練につき達……………明治元年十月……………816

444 盗賊取締り巡回につき達……………明治二年四月……………817

三 菰野藩

445 藩主土方雄永旧幕領兵糧奉行に就任……………慶応四年二月……………817

446 藩知事土方雄永隠居……………明治三年九月……………817

447 藩、職制を整備……………明治三年十月……………818

448	藩、大蔵省へ租税録を提出……………	明治二年八月……………	820
449	藩、弁官に対し藩制の概略を報告……………	明治三年十二月……………	821

#### 五 亀山藩

450	黒田頑一郎を那代に任命……………	慶応四年二月……………	825
451	革新派が佐治拙斎ら保守派を処分……………	慶応四年二月……………	826
452	黒田頑一郎の暗殺……………	明治元年十月……………	827
453	朝廷、黒田事件について亀山藩に内諭……………	明治二年三月……………	827
454	黒田事件につき裁許……………	明治二年三月……………	828
455	禄制改革の実施……………	明治二年十月……………	829
456	藩制改革取調書等を提出……………	明治二年十月……………	829

#### 第三節 津・久居藩

##### 一 版籍奉還・廃藩置県

457	給地の五分懸り……………	明治元年十月……………	837
458	版籍奉還による給地の廃止……………	明治二年四月……………	837
459	農兵の解散……………	明治二年十一月……………	840
460	津藩知事の交代……………	明治四年六月……………	840

461	久居藩領内戸籍区割と正副戸長名一覧作成……………	(明治四年)……………	841
-----	--------------------------	-------------	-----

##### 二 経済対策

462	金札の通用……………	慶応四年～明治五年……………	843
463	立用調達金の下命……………	慶応四年～明治二年……………	850
464	藩札と羽書の様子……………	明治二～七年……………	851
465	民部省札の発行による経済混乱……………	明治二～八年……………	858
466	調達金返還の延期……………	明治二年十月……………	858
467	藩札発行七〇万五千両余……………	明治三年二月……………	859
468	平高制の廃止……………	明治三年閏十月……………	860

##### 三 宗教対策

469	神仏混交の取糾し……………	慶応四年～明治五年……………	860
470	津藩、専修寺を管轄……………	明治四年五・六月……………	864

##### 四 天皇の警衛

471	神宮参拝の助郷三千人……………	明治二年二月……………	865
472	大宮御所の警衛……………	明治二年三～八月……………	866

##### 五 監物騒動

473	長尾連の糾問書……………	明治四年正月……………	867
-----	--------------	-------------	-----

## 第四節 紀州藩

## 一 戊辰戦争期の家臣と領民

交代松坂詰め農兵卒の帰村	474	慶応四年正月	873
勢州三領で敗残兵等の搜索	475	慶応四年二月	873
敗残兵搜索・風説禁止の通達	476	慶応四年五月	874
江戸常府の藩士ら帰国	477	慶応四年六月	875
南勢村々領主別高調べを紀州藩が担当	478	慶応四年七月	876
英国機械匠らが灯台築造のため海岸要所を検分	479	明治元年九月	877

## 二 藩政改革の公示と組織改編

藩政改革の公示	480	明治二年二月	878
代官所を改めて松坂、田丸、白子民政局設置	481	明治二年三月	879
勢州の民政局を統合、松坂出庁と改称	482	明治四年正月	880
勢州村々で五人組の組替え	483	明治二年五月	881

## 三 民政の展開

学習館での授業時間割公示	484	慶応四年三月	883
学習館での修学奨励	485	慶応四年三月	884
熊野地方に茶・椎茸の外国向け製法奨励	486	慶応四年三月	885
勢州領で神仏混淆の取調べ	487	慶応四年九月	886

勢州三領内参宮街道筋等で手余り地調べ	488	明治元年十一月	887
--------------------	-----	---------	-----

牟婁下郡で桑苗植付け奨励	489	明治二年十月	887
--------------	-----	--------	-----

松坂領で社倉取り建て	490	明治二年九月	888
------------	-----	--------	-----

尾鷲浦々で遊女などを厳禁	491	明治三年五月	890
--------------	-----	--------	-----

牟婁下郡で諸山配札禁止、山伏頭廃止	492	明治三年閏十月	890
-------------------	-----	---------	-----

## 四 徴兵制の施行と戸籍作成

垣鼻村信楽寺ほかで徴兵検査実施	493	明治三年三月	891
-----------------	-----	--------	-----

熊野地域で人口調査	494	明治三年二月	893
-----------	-----	--------	-----

農工商別戸籍作成の通達	495	明治三年九月	893
-------------	-----	--------	-----

## 五 藩札の発行と流通

紀州藩発行藩札総額を大蔵省に報告	496	明治三年三月	894
------------------	-----	--------	-----

紀州藩銭札、和歌山相場場で引換えの通達	497	明治三年二月	896
---------------------	-----	--------	-----

牟婁下郡で銭札所持高取調べ	498	明治三年三月	897
---------------	-----	--------	-----

和歌山銭札通用停止	499	明治三年三月	897
-----------	-----	--------	-----

## 六 田丸藩独立運動

田丸城代ら田丸藩の独立を嘆願	500	明治二年六月	898
----------------	-----	--------	-----

## 第五節 鳥羽藩

## 一 藩主と家中

501	稲垣長敬、鳥羽藩継嗣に就任	慶応四年七月	902
502	家中の役米金改定	明治元年十一月	902
503	砲隊・護衛隊士らの不穩	明治二年七月	904
504	藩城廃棄の伺い	明治三年九月	905
505	家中婦女の風儀取締りを達す	明治四年三月	905

## 二 明治元年の藩政改革

506	明治元年の藩政改革	明治元年十月	906
-----	-----------	--------	-----

## 三 明治二年の藩政改革

507	鳥羽藩藩議院の開設	明治二年六月	910
508	鳥羽藩主、版籍奉還に際しての家中士への自筆書	明治二年八月	911
509	家老職以下の廃止	明治二年十一月・十二月	913

## 四 明治三年の藩政改革

510	鳥羽藩庁改制	明治三年十二月	915
-----	--------	---------	-----

## 第六節 神宮領・旧幕領

## 一 王政復古直後の神宮

511	神宮、両会合を警戒	慶応三年十二月	923
512	紀州藩へ神宮警衛応援の依頼計画	慶応四年正月	924

## 二 関東名代の参宮問題

513	関東名代の処遇に苦慮	慶応四年正月	925
514	関東名代乗船との情報	慶応四年正月	927
515	関東名代の参宮は拒否と決定	慶応四年正月	927
516	関東名代参宮を断念	慶応四年正月	928

## 三 戊辰戦争下の治安対策

517	宇治・山田の宿泊者に対する注意	慶応四年正月	929
518	落ち武者通行の噂	慶応四年正月	930
519	神宮警衛・神領支配山田奉行に下命	慶応四年二月	930
520	鎮撫使には祭主を希望	慶応四年閏四月	931
521	神宮祠官より兵隊派遣の嘆願	慶応四年六月	932

## 四 度会府の設置

522	久居藩に神宮警衛下命	慶応四年七月	933
523	度会府より管下へ諭達	明治元年九月	934
524	度会府山田へ移転	明治元年十一月	935

## 五 度会府の諸政策の一端

525	貫金上納免除	明治元年十月	935
526	身売りの制限と墮胎の禁止	明治元年十一月	936
527	商法役所設置	明治元年十二月	936
528	目安箱の活用	明治二年二月	937
六 教育・医療施設			
529	林崎・宮崎両学校設置	明治元年十月	937
530	聴講の奨励	明治元年十一月	939
531	医学館・病院設立	明治元年	939
532	町医者らの聴講奨励	明治元年十二月	940
533	医学館新年の開講	明治二年正月	940
534	窮民受診者に印紙交付	明治二年正月	940
七 紙札の通用			
535	松坂銀札の信用	慶応四年正月	941
536	羽書増製	明治二年正月	942
537	在方の羽書引換方法	明治二年正月	942
538	在方の羽書引換方法改正	明治二年二月	942
539	四匁札製造	明治二年二月	943
540	羽書引換場所の変更と金札相場の適用	明治二年二月	944
541	羽書引換えを三分の一に減額	明治二年十一月	944
八 度会県新庁舎への移転と管轄地増加			
542	度会県新庁舎通行規定	明治三年六月	945
543	名古屋藩支配の元桑名藩領度会県に編入	明治三年正月	946
544	一宮藩管轄地度会県に編入	明治三年十月	947
九 天皇の神宮参拝			
545	度会府貸付金返済免除	明治二年正月	947
546	行幸につき注意書	明治二年三月	948
547	天皇の参拝につき人足動員	明治二年	949
548	行幸につき増人足動員	明治二年三月	949
一〇 北勢旧幕領の動向			
549	大垣藩に管轄替え反対運動	慶応四年正月	950
550	朝廷領復帰運動	慶応四年三月	952